

昨年度はIBトライアル授業が始まりましたが、保護者の皆様のご理解ご協力のおかげでIB候補校としての1年目が無事に終わりました。学年部を代表して感謝申し上げます。そして、今年度もよろしくお願いいたします。

IBコーディネーター 片野美帆

## 「国際バカロレア(IB)保護者向けワークショップ」 を開きました！

2月18日(日)に本校で、保護者向けワークショップを行いました。当日は6名の保護者の方に来ていただき、IBへの理解を一緒に深めることができました。また、保護者の方々からIBや授業の様子について質問をいただきました。(質問内容と回答については裏面をご覧ください。)

今後、IBに関してや普段の学校の様子などを保護者のみなさまと共有する機会を増やしていきたいと考えておりますので、次回以降のワークショップにもぜひご参加ください。

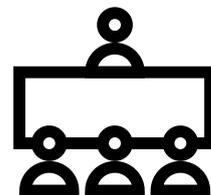


## コンサルタント訪問がありました！

2月21・22日、現在本校のIB校認定に向けてアドバイスいただいたり、相談に乗っていただいたり様々な支援をしていただいているコンサルタントの方が訪問のため来校されました。

今回の訪問では、教員との面談のほか、生徒や保護者の方々へのインタビューもありました。今回ご協力いただきました保護者の皆さま、ありがとうございました。

また、校内や授業の様子も見ていただき、1組では「芸術(美術)」、2組では「数学」の授業をご覧になられ、生徒が楽しく授業を受けているという印象を抱かれておりました。また美術の授業では、それぞれが描いた自画像の見せ合いをしていたところ、ある生徒が色を塗り終わっておらず、披露することを恥ずかしがっていたのですが、その様子にクラスメイトから「まだ色が塗られていないってことはこれからの伸びしろを表しているいいじゃん！」という会話があり、生徒同士のやり取りの様子に驚かれていました。



## 保護者からのQ & A

Q1. 大学受験でIB受験があったりしますが、今のところ中学だけIBなのかな？と思うと…  
高校の授業はどうなるのだろうか…

A. れいめいでは、中学校のみIBの授業で進めていきます。

大学入試のIB受験については、高2・3年でDP (Diploma Programme) を履修し、最終試験を経て国際的に認められる大学入学資格を取得すると、IBのスコアを活用した入学者選抜を導入している大学への進学  
の機会が得られる制度がありますが、DPを履修すると決めた段階で、日本の大学入試の一般選抜の道は閉ざ  
されてしまいます。また、DPは英語以外にもう1科目すべて英語で授業を行わなければならないという要件  
もあり、そこまでの環境を整えるにはまだ時間がかかるだろうと考えております。

一方、日本の大学においてもIBの評価は高まってきており、中学校のみMYPに取り組み、高校は一般の力  
リキュラムを経て大学に入学してきた学生でも、発表や研究の姿勢は際立って優れているので、もっとMYP  
の学校を増やすべきであるとの声もあります。

このような理由で、れいめいでは中学校のみIBの授業を行い、高校はこれまでの難関大学合格のノウハウ  
を生かした授業を行うことで、大学受験の際には、一般選抜にも総合型選抜にも対応できる生徒を育ててま  
いります。



Q2. 定期テストは今後も予定されないのでしょうか？

A. 今後も中間考査や期末考査は実施しません。

IBは各教科4観点でそれぞれ評価を行います。そのうち「知識・理解」の観点を評価するために各教科で  
単元テストを実施しております。

日本の新学習指導要領においても「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」  
の3観点で観点別評価を行っており、「資質・能力のバランスのとれた学習評価を行っていくためには、論  
述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった活動を評価の対象とし、ペー  
パーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である」（『中学校学習指  
導要領解説（総則編）』第3章第3節の2）と謳われていることから、定期テストを廃止し単元テストに代  
える動きはIB校以外でも見られます。

一方、保護者の皆さまからは「本当に学力がついているか心配」との声も寄せられております。その点に  
関しては、単元テストの結果とその振り返りをもって各教科担当者が責任をもって見届けます。また、総括  
評価としての単元テストの前に、必要に応じて形成的評価として、小テストなども随時実施しております。  
さらに、ベネッセの「学力推移調査」や「総合学力調査」を受けることで、5年後に控えている大学入試に  
対応できる力が身についているかも同時に把握していきます。

また、来年度はその後の探究活動がより深いものとなるために必要な知識や技能が身についているかを図  
るための校内実力考査の実施を予定しております。

Q3. 国際的に通用する人物の育成がIBかなと思っているのですが、そのためには英語で自分の考えなど発表  
できるレベルにならないとだめじゃないかと思います。聞き取れ、喋れる英語力も養われます？

A. IBプログラムは、国際的な視野の育成を目指しており、異なる国の視点から、世界に対してどのように  
貢献することができるか考えることのできる人を育てていきます。

IBでは、2言語以上(れいめい中学校では日本語と英語)で幅広いコミュニケーションの方法を学ぶことが多  
様な文化を理解するために欠かせない基盤であると捉えています。

言語の習得(英語)では、4技能全てが身につくように、「A 聞くこと」「B 読むこと」「C 話すこと」  
「D 書くこと」と明確に評価基準が設けられています。英語の校内放送を聞いたり、教科書で学んだ表現を  
使って自分自身を紹介したり、パーティーの招待状を書いたりしており、4技能をうまく使えるようにユニ  
ットプランナーを作成し、授業を進めております。